

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年12月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年12月11日～12月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 125社
- 回収率 62.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の12月の状況を見ると業況DIは、前月より5.6ポイント改善の▲13.6となった。

2017年9月以来10ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲20.0、当月と比べ6.4ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2026年1月～ 2026年3月
業況	▲18.2	▲19.8	▲20.9	▲25.3	▲19.2	▲13.6	▲20.0
売上	▲3.7	▲6.6	▲6.7	▲10.0	▲4.8	▲6.4	▲12.8
採算	▲16.1	▲20.6	▲21.6	▲26.9	▲16.0	▲15.2	▲19.2
仕入単価	▲58.4	▲52.9	▲60.5	▲58.4	▲56.0	▲56.0	▲52.0
販売単価	28.5	19.1	21.7	23.9	26.4	20.8	19.2
従業員	29.9	28.6	33.6	35.4	35.2	32.0	34.4
資金繰り	▲10.9	▲15.5	▲8.9	▲14.6	▲12.8	▲15.2	▲17.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 2026年1月～ 2026年3月
建設	▲19.3	▲23.4	▲24.1	▲35.5	▲34.5	▲35.7	▲35.7
製造	▲23.4	▲19.3	▲23.3	▲23.4	▲24.2	▲6.6	▲23.3
卸売	▲15.7	▲15.4	▲16.7	▲17.9	▲10.7	▲13.3	▲26.7
小売	▲35.0	▲40.0	▲44.4	▲41.2	▲17.6	▲26.7	▲13.3
サービス	0.0	▲6.9	▲3.7	▲12.5	▲4.6	13.7	9.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・資機材価格、下請施工費の高騰により利益を圧迫している。（総合工事） ・今回の補正予算は公共投資を通じて建設需要を下支えする効果が期待される。一方で日銀の利上げは戸建住宅の着工を抑制する要因となり、民間需要の回復は限定的とみられる。そのため業界では数量の拡大は見込みにくく、効率化による生産性向上と原価管理の徹底によって限られた受注の中でも安定した収益を確保することが重要であると考えられる。（設備・その他） ・住宅新築見込客の発掘に苦戦しており、営業戦略の立案が最大の課題である。住宅取得世代の減少といった人口構造の変化のほか、資材・人材費高騰による住宅価格の上昇や日銀の利上げトレンドに伴う住宅ローン金利の高まりなどで住宅取得が困難化することが懸念され、住宅投資は今後ますます低調に推移すると予測する。（建築業）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・主力商品の売上は例年通りだが、原材料の不作で今後売上の減少が懸念される。（食料品） ・相変わらずホームユースの引き合いは少ないが、ホテル案件の引き合いが増えてきた。海外からの問い合わせも増えてきている。（家具・木材） ・機械故障・原木不足による生産停止。（家具・木材） ・仕事はかろうじて同業も含め 80%程度は確保しているが採算が好転するよう努力が必要。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・道内外の各地で積雪が相次いだことから、冬物商品の流れが昨年より良かった。価格も値上がりしているため、売上を押し上げたが利益は為替の影響もあり厳しい。（繊維衣服） ・鳥インフルエンザ発生の為、原料の入荷が大幅に減少。道内食品工場の火災による原料の減少。（食料品） ・北海道の四季折々の年中行事に合わせ味を変化させ喜ばれているが、物価高による買い控えは否めない（食料品） ・主力商品の価格の高騰、納期遅延のため今後の影響が心配。（機械鋼材等） ・可処分所得が上らない限り小売業者の動向は低滞が続く。特に量販店対応の花束加工業者は昨年の 10 月から厳しい状況が続いている。葬儀・婚礼の単価増も小規模化、又は行わない流れが続き期待薄である。そんな流れの中、年末商戦の市況は非常に厳しい状況である。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・例年の 12 月と今年では来店する顧客が異常に少なく、ギフトの売れ行きも思わしくない。1 年で売上がもつとも高いため大変苦しい状況。数少ない来店客に商品を購入して頂ける接客を心掛けて売上を確保したい。（衣服身回品） ・前年と比較すると日曜が 1 日少なく、売上の厳しい状況。荒利益の確保と経費支出管理が営業利益確保に必要。（食料品） ・ガソリン・軽油の暫定税率廃止に向けた国の補助金増報道を受け、値下がりした商品が入荷する前から値下げする業者があり、採算性が低下している。年末商戦の盛り上がりがあり無い。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰による消費者の買い控えで売上が減っている。（理美容・クリーニング） ・中国の外交問題。今のところ影響はないが長引くとどうなるか心配ではある。（ホテル・旅館） ・軽油の値下げがどの程度好影響を与えるか、その他の原材料価格との兼ね合いを注視したい。（その他） ・今春より原材料・エネルギーコストの高騰や人件費ベースアップを見据え、各料金改定を行い効果が出てきているが、今後の設備投資や特に従業員待遇を良くするためにはまだまだ見直し改定の価格交渉が必要である。（整備） ・本格的な冬期型運行形態となり、安全面がより一層強化されなければいけない。雪を観光資源とする人流増加に期待するが、国際情勢（特に中華圏）に左右されかねないことは不安要素。来期を見据えて、賃上げと設備更新投資の余力を残したいがコロナ期の借入返済負担は依然重い。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI7.3 ポイント悪化、採算 DI1.4 ポイント悪化、仕入単価 DI9.3 ポイント悪化、販売単価 DI3.0 ポイント悪化、資金 DI0.7 ポイント悪化、従業員 DI12.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 10 ポイント、建築業 8 ポイント悪化となった。政策金利の上昇による業界に与える影響が不透明との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI3.1 ポイント悪化、採算 DI6.4 ポイント悪化、仕入単価 DI8.7 ポイント改善、販売単価 DI14.7 ポイント悪化、資金 DI10.0 ポイント悪化、従業員 DI2.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 17.6 ポイント改善となった。業種別では、家具・木材 21 ポイント悪化、食料品 14 ポイント、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 51 ポイント改善となった。原材料・エネルギー価格・労務費等のコスト増や価格転嫁、設備投資との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI7.4 ポイント改善、採算 DI2.6 ポイント悪化、仕入単価 DI6.7 ポイント悪化、販売単価 DI1.7 ポイント改善、資金 DI6.0 ポイント悪化、従業員 DI1.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.6 ポイント悪化となった。業種別では、その他 14 ポイント改善、繊維・衣服横ばい、食料品 14 ポイント、機械鋼材 11 ポイント悪化となった。灯油シーズンに入ったが、仕入値に大きな変動はない。従って販売価格は現在の水準で推移すると思われるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI16.5 ポイント悪化、採算 DI3.5 ポイント改善、仕入単価 DI10.5 ポイント悪化、販売単価 DI0.8 ポイント改善、資金 DI1.6 ポイント悪化、従業員 DI1.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.1 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、自動車横ばい、食料品 23 ポイント、その他 2 ポイント悪化となった。消費者の節約志向の影響が出ているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI4.5 ポイント改善、採算 DI13.7 ポイント改善、仕入単価 DI18.2 ポイント改善、販売単価 DI13.6 ポイント悪化、資金 DI9.2 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 18.3 ポイント改善となった。業種別では、その他 17 ポイント、飲食 8 ポイント悪化、理美容・クリーニング横ばい、ホテル・旅館 60 ポイント、整備業 45 ポイント、運送 17 ポイント改善となった。修繕費、人件費と光熱費の増加により利益が上がらないとの声も寄せられている。</p>